

## 第1回愛南町海業推進会議 議事概要

開催日時：令和5年7月27日（木曜日）10時から12時

開催場所：愛南町役場本庁3階大会議室

参加者：清水愛南町長、海業推進会議委員（22名）

事務局（水産庁2名、愛媛県3名、（株）価値総合研究所2名、愛南町）

一般来場者：7名

報道機関：4名（3社）

議事概要：

会議冒頭、清水町長から開会挨拶。以下、流れに沿って記載。

### 【第1部 プロローグ】

まず、出席委員と事務局から各々自己紹介を実施。続けて東海大学の李准教授と海業推進室の浜辺室長とのパネルトークが行われた。

＜海業についてのパネルトーク＞

海業推進室の浜辺室長から海業の定義について説明した後、東海大学の李准教授から地域資源の一般論や他地域の海業の事例3地区について発表が行われ、愛南町の地域資源についてのトークが展開された。その後、配布資料に沿った説明が浜辺室長から行われた。この中で、海業は参加委員・町民の皆さんが進めるものであること、本海業推進会議はプロジェクトやイベント等が生まれるプラットフォームにしていくこと等の説明が行われた。

（休憩5分。会場のレイアウト変更等を実施。）

### 【第2部】グループセッション

前半にグループワーク（30分）、後半にグループ発表（15分）を実施した。

＜グループワーク＞

A～Cのグループに分かれ、それぞれのグループに課されたお題について、①地域資源、②地域資源の課題、③地域資源のありたい姿（解決策）をKJ法を活用したアイデア出しを行った。さらにそれらをまとめるストーリーについて話し合った。それぞれのグループ課題は以下のとおり。

グループA：「海洋環境の保全、環境教育、海ごみ・プラ、SDGs」

グループB：「拠点整備、レジャー・アウトドア、体験ツアー」

グループC：「場産品の商品開発・提供、PR強化、ブランド化」

#### <グループ発表>

##### ーグループA（概要）ー

「愛南町を何度も訪れたい町にすることを最終目標に意見を出し合った。その結果、海ごみを「ごみ」としてではなく、ごみ収集のボランティア活動を含めて、ごみそのものを地域「資源」として捉え、その活用を考えた。課題としては、施設や設備の確保、流通、費用や時間、誰が利用するのか、などが挙げられた。これらのありたい姿として、愛南の海産物を愛南の山に還す循環をイメージした。そして、海洋ゴミのない美しい海の愛南町を実現し、何度も来たいと思うまちづくりを略してNKOMプ（な（Na） んどもき（Ki） たいとお（O） もうま（Ma） ちプロジェクト）というネーミングを考えた。」

##### ーグループB（概要）ー

「地域資源として、自然に関する資源、海に関わる食、海に関わる体験、民宿などが挙げられた。課題としては交通の問題、宿泊施設不足、天候不良で体験が中止になった際のアフターケアができる情報拠点が無い、ビーチが無い、国立公園の規制等が挙げられた。これらのありたい姿として、魅力的なツアーづくり、魅力ある拠点の整備、情報ネットワークづくり等が挙げられた。」

##### ーグループC（概要）ー

「お題にこだわらず意見を出し合った。製品の「鮮度」が強みとして挙げられた。一方、課題として、資源はたくさんあるが、それらを活用する基盤づくりができてない、案内が上手ではないなど情報発信が弱いということが挙げられた。これらの解決策として、お客さんが自分で探索する仕掛けを作ることなどの意見が挙げられた。他にも、シルバー人材に昔話や知恵を披露いただき、町民と来訪者が行う交流が情報発信や体験に繋がるという意見も挙げられた。」

#### 【その他、連絡事項】

事務局から、次回会議については9月20日（水曜日）午前を予定している旨の説明が行われた。会議後アンケートについても、8/1までの提出をお願いする旨の説明が行われた。

以上